

令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

清水小	学校
-----	----

児童数	75
-----	----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	16.59	19.03	29.50	33.03	40.91	9.70	141.18	19.94	47.31
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	15.38	21.31	33.35	33.13	38.76	9.75	134.34	13.00	52.20
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.85	9.77	142.34	13.11	53.97

結果の概要

○男子は、握力は大阪市・全国平均を上回り、その他は大阪市・全国平均を下回る結果となった。女子は上体起こし、20mシャトルラン、50m走で大阪市・全国平均を上回り、ソフトボール投げは、大阪市平均を上回った。握力、長座体前屈、反復横とび、立ち幅とびは、大阪市・全国平均を下回る結果となった。

○長座体前屈、反復横とび、立ち幅とびは男女ともに大阪市・全国平均を大きく下回っており、柔軟性、敏捷性、瞬発力、跳躍力に課題があることが分かった。

○体力合計点においては、女子は大阪市・全国平均をわずかに下回った。男子は大阪市・全国平均を大きく下回り、男子の運動・体力面の課題が大きいことが分かった。

○児童質問紙の「運動やスポーツをすることは好きですか。」の項目で肯定的な回答の割合は、男子が90.6%、女子が82.1%であり、男女とも大阪市・全国平均を下回っている。1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合は、男子が6.1%、女子が13.2%と全国・大阪市平均より少ない。運動の大切さについて理解し、体を動かすことを意識している児童が多いことが分かった。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

○「夢・授業」や区役所の運動能力サポート訪問などでトップアスリートや外部講師を招き、走り方や跳び箱、なわとびなどの指導を受けた。校内では、業間体力づくりの取り組みとして、かけ足やなわとびを行ったり、学級でみんな遊びに取り組んだりした。また、業間や昼休みに南運動場を開放して、運動に親しみ、体を動かす機会を増やすようにしている。これらの成果として、男女ともに体を動かす習慣が身に付いてきている。

○今後は、柔軟性、敏捷性、瞬発力、跳躍力を向上させる取り組みが必要である。特に、学校全体の課題として、柔軟性を向上させるために昨年度から取り組んでいる、体育科の授業でのストレッチの時間の確保や様々な部位を使った動きなど、各学年の実態に合わせた取り組みを継続して行っていく。